

安全な水とトイレを世界に

「私のできること」



2年1組20番

目的

普段何気なく使っている水

その重要性や必要性を
調べた数値から考える

用途別使用量の目安

用途	使い方	使用量
洗面・手洗い	1分間流しっぱなしの場合	約 12リットル
歯みがき	30秒間流しっぱなしの場合	約 6リットル
食器洗い	5分間流しっぱなしの場合	約 60リットル
洗 車	流しっぱなしの場合	約 90リットル
シャワー	3分間流しっぱなしの場合	約 36リットル

東京水道局

トイレは大体の一般的な便器の場合、一回8L～6L程度の水が流れる

飲み水・食事などに使う水: 1.5~2L

洗面・歯磨き(合計約1分間): 6L

手洗い(1回15秒間として): $1.5\text{L}/\text{回} \times 8\text{回} = 12\text{L}$

トイレ: $6\text{L}/\text{回} \times 4\text{回} = 24\text{L}$

食器洗い(食洗器使用 = $10\text{L}/\text{回} \times 1\text{回}$ 、付けおき洗い = $20\text{L}/\text{回} \times 2\text{回}$ として): 50L

シャワー(3分間使用): 36L

浴槽: 約180L

私が一日に使う水の量は、約270L

人は一日にどのくらいの水で 生きていけるのか

JICAの資料では、
1日当たり

飲料水と最低限の個人衛生に必要な水量は**20L**
入浴や洗濯に必要な量を考慮すると**約50L**

一日当たり必要最低限な水の量を
220Lも
上回っていた！！

⇒どうしたら水の使用量を
減らせるか？

水の使用量を減らすために できること

- 風呂の残り湯を、洗濯や掃除に使う。
- 食べかすやカップ麺のスープなどを排水に流さない。
- シャワーを使う時間を減らす。
- 手洗い時に水栓を開きっぱなしにしない。
- 自動の水栓を選んで手洗いする。
- トイレの水を流す際に大小のレバーを使い分ける。
- トイレの水音を消すために、余分に流さない。

なぜ、SDGsで水が問題となるのか

JICAによると、1人1日当たりの平均水使用量が

50L以下の国はバングラデシュ、ケニア、ガーナ、ナイジェリアなど

20L以下の国はアンゴラ、カンボジア、エチオピア、ハイチ、ルワンダ、ウガンダ、モザンビークなど
アフリカを中心とした低所得な国々が多い。

安全な飲み水を使えない人は世界の人口の約3分の1の約22億人

安全に管理されたトイレを使えない人は世界の約6割の約42億人

考察

貧しい地域で水の使用量が少ない理由としては、遠い水源から重たい水を運ばなければならなかったり、上下水道料金が高くて支払えないことが挙げられる。
また、上下水道が普及していないために、水源自体も「安全な水」では無い可能性もある。

日本では、平成30年度に、上水道の普及率は98%、汚水処理普及率は91.4%となっている。人口5万人未満の市町村では汚水処理人口普及率は80.3%にとどまり、大都市と中小市町村では大きな格差がある。
日本でも行政の財政の格差により、「安全な水」へのアクセスが妨げられている可能性も否定できない。

個人個人が水の使用量に気を付けるとともに、所得の格差から「安全な水」へのアクセスができなくなることを少しでも解消するにはどうしたらよいかを考える必要がある。

まとめ

- 今回、自分が一日に必要以上の水を上回る量を使っていたことが分かった。
- 今後、少量ずつでも、水を節約できるように考えながら行動したい。
- また、世界で「安全な水」が使えるようにするためには、何ができるのか、考えてみたい。

参考資料

<https://www.waterworks.metro.tokyo.jp/faq/qa-14.html#2>
<https://www.jica.go.jp/publication/monthly/0711/pdf/01.pdf>
<https://www.mhlw.go.jp/content/000624223.pdf>
<https://www.env.go.jp/press/107120.html>